

好きです！奄美農業

編集・発行 大島支庁農林水産部農政普及課

経営普及係・技術普及係 奄美市名瀬永田町17-3 (0997)57-7274

瀬戸内町駐在 瀬戸内町古仁屋船津36 (0997)72-0184

喜界町駐在 喜界町赤連2901-14 (0997)65-3019

<http://www.pref.kagoshima.jp/aa02/chiiki/oshima/sangyo/nougyou/index.html>

奄美農業担い手セミナー瀬戸内町で開催!!

11月19日(水)、大島地区農業改良普及事業協議会主催の「令和7年度奄美農業担い手セミナー」が瀬戸内町きゅら島交流館で開催され、奄美大島・喜界島の認定農業者や新規就農者など25名のほか、地元関係者を含め総勢51名が参加しました。

【主な内容】

1 「作物生産における病害虫防除 ～これまでと今後～」

■講師：県大島支庁農政普及課 野島技術主査

病害虫の専門的な知見や両島での事例について害虫とその被害の様子及び、病害の発生は主因（病原体）、素因（植物の性質）、誘因（環境条件）によって引き起こされること並びにその事例などが紹介され、「作物の発病の仕組みが理解できた。樹勢維持や環境づくりが重要であることが分かった」など参加者からの声をいただきました。



講演する野島技術主査

2 「地域農業をリードする担い手から ～地域と仲間と広げるさとうきび～」

■講師：喜界町のさとうきび経営者 伊地知清隆さん

農業所得の目標を達成するために取り組んだ経営のポイント

- ①規模拡大：農地集積には地域との信頼関係が大切であり地域計画を活用
- ②栽培管理の徹底：株出は収穫直後に施肥、夏植えは必ず8月中旬に植付け終了、夏場のかん水等、基本が大切
- ③簿記記帳と営農計画：簿記記帳結果から経営シミュレーションによる営農計画作成と実績の検討

このほかに、スマート農業推進や地域の営農計画作成にも積極的に参加して連携していることなどが紹介されました。

「地域から信頼され、未来を託されている事例として感動した」など、参加者からのその取り組みを評価する声がありました。



講演する伊地知氏

その他、奄美大島選果場管理運営協議会フルーツブランド確立推進員の熊本氏から、あまみフルーツアイランド確立推進事業により、今後5年間でたんかん、津之輝をブランド化すること、また果樹栽培をする上で重要な防風対策について説明がありました。県農業共済組合大島支所の濱田氏からは、近年加入者が増えつつある収入保険について、モデル試算と本県の取扱状況の紹介がありました。

セミナーを終えて参加者からは、農業経営・経営シミュレーションの方法、地域農業の情報共有、有機農業栽培、肥料・土づくり、パッションフルーツや津之輝などの栽培管理、スマート農業、就農計画、野菜農家の活動、新しい品目の紹介、他農家の事例発表等々、今後のセミナーの内容について希望があり、来年度も開催を期待する声が聞かれました。

奄美大島・喜界島農業の動き

奄美大島・喜界島の農業の出来事を、毎月県ホームページ上で紹介しています。
右のQRコードから閲覧できます。
詳細は大島支庁農政普及課までお問い合わせください。



令和7年 7月掲載	6月25日 濑戸内町で肉用牛における暑熱対策研修会を実施！
	7月 1日 喜界島の畑かん事業でアクションプログラム策定を決定
	7月 9日 盛会！奄美農業を語る会
	7月10日 令和7年度第1回奄美地域畜産若手生産者研修会を開催！
	7月14日 地域計画を活用して喜界町川嶺集落の農地集積の方向性が決まる
	7月16日 令和7年度農業基礎講座を開講！農業経営について学ぶ
	7月18日 北大島ハーベスタ連絡協議会で収穫コスト試算の検討・分析を提案
8月掲載	7月29日 女性農業者が今後の組織活動などについて語り合う
	8月 5日 さとうきびハーベスタオペレーターの確保に向け、刈取体験会を開催
	8月 6日 10回目のマンゴー品評会は過去最高の糖度！
9月掲載	8月27日 喜界町ハーベスタ協議会はコスト試算、オペレーター確保に取組む
	9月24日 農業基礎講座を通じ新規就農者・研修生の営農意欲・覚悟が高まる
10月掲載	10月10日 喜界島さとうきび大規模モデル農家間で相互検討会を開催！
	10月10日 喜界町川嶺集落の大規模農家間の農地棲み分け・交換について検討
	10月18日 喜界町でさとうきびハーベスタ新規オペレーター試乗会を開催
11月掲載	10月28日 大島地域 食育・地産地消推進研修会を開催
	11月 5日 さとうきび大規模経営体の法人化に向けた支援を実施
	11月17日 さとうきび生産振興大会で大規模経営体の省力化事例を紹介
	11月17日 さとうきび収穫にかかるコストについての勉強会を開催
	11月17日 製糖期に向けてオペレータ労働安全研修会を開催
	11月19日 奄美の担い手が瀬戸内町でのセミナーに集う



肉用牛における暑熱対策研修会
畜舎屋根への石灰塗布(7月掲載)



奄美農業を語る会
現地検討の様子(7月掲載)



喜界町川嶺集落での地域計画を活用した農地集積に関する話し合い(7月掲載)



新規就農者・研修生を対象とした農業基礎講座の様子(9月掲載)



さとうきびハーベスタ
新規オペレーター試乗会(10月掲載)



大島地域食育・地産地消推進研修会
(11月掲載)

家族経営協定で経営改善を図りましょう

みなさんは、「家族経営協定」という言葉を御存知でしょうか？

家族経営協定とは、農業経営に携わる家族のみんなが、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できるよう経営方針や役割分担、働きやすい就業環境などについて、家族みんなで話し合って取り決めるものです。

取り決めた内容は、右図のような書面にしておきます。

家族農業経営の欠点	<ul style="list-style-type: none"> ・経営と生活の境目が明確でない ・役割分担があいまい ・労働時間や労働報酬が決まっていない
-----------	---

○○家の家族経営協定書

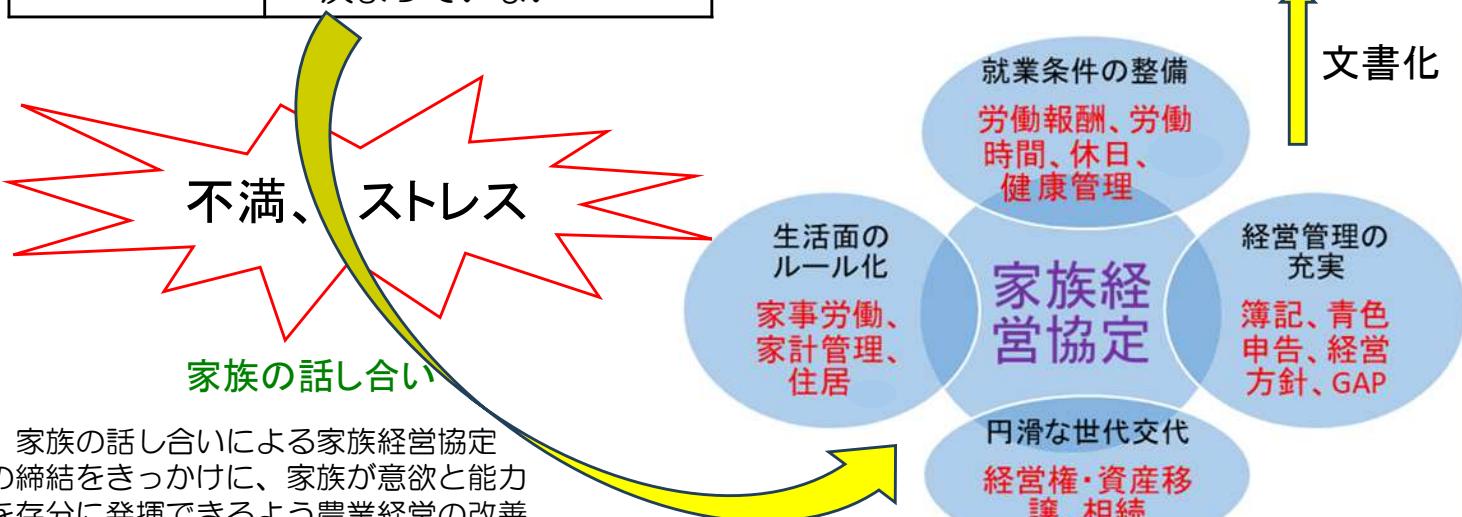
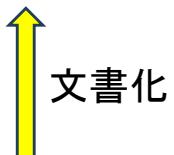
目的····· 労働報酬·····

経営方針····· 役割分担·····

労働時間·····

令和8年 月 日
(夫) ○○☆☆
(妻) ○○♥♥
(長男) ○○★★

休日·····



家族の話し合いによる家族経営協定の締結をきっかけに、家族が意欲と能力を存分に発揮できるよう農業経営の改善に取り組みましょう!!

●家族経営協定を締結すると、認定農業者制度における共同申請ができます。

共同申請のメリット ①全員が認定農業者になれる

②役割分担に基づく経営改善への取組が促進される

③親子では将来の経営継承の円滑化にもつながる



【家族経営協定の締結状況】

1 締結農家数（令和6年3月 31日現在）

全 国 — 59,587戸 うち新規 — 1,423 戸

鹿児島県 — 1,896戸 うち新規 — 24 戸

奄美大島・喜界島（令和7年3月31日現在）

— 32戸 うち新規 — 2戸

2 締結のきっかけ

締結したきっかけは、全国的には以下のものが多いようです。

①親世代からの経営継承のため（経営主の世代交代） ··· 24.3%

②新規就農（結婚就農、前職退職等を含む） ··· 21.4%

③就農準備資金・経営開始資金（旧農業次世代人材投資資金）

活用のため ··· 17.3%

④定期的な見直しのため（毎年見直す等） ··· 17.0%

⑤農業者年金への助成のため ··· 8.9%

奄美大島・喜界島の締結家族の取決め状況

取決め内容	戸数と割合
経営方針	32戸 (100%)
労働時間	32戸 (100%)
役割分担	32戸 (100%)
休日の設定	31戸 (97%)
労働報酬	24戸 (75%)
健康管理	17戸 (53%)

さあ、決算期を迎える今、みなさんも農業経営改善のため家族経営協定について家族で話し合ってみませんか？ 家族経営協定については、大島支庁農政普及課（電話0997-57-7450）へお問い合わせください。

大島地区青年農業者会議を開催

11月27日、喜界町自然休養村管理センターで大島地区農業青年クラブ連絡協議会主催の青年農業者会議が青年農業者、指導農業士、女性農業経営士、関係機関等約30名出席のもと開催されました。

2名の青年農業者が発表を行い、先輩農業者や他のクラブ員から多くの助言質疑が挙がるなど、活発な意見交換が行われました。

また、大島地区指導農業士会会长からは、「就農開始時の初心を忘れず、目標達成に向け様々な取組に挑戦してほしい」と講評をいただきました。

青年農業者の今後ますますの活躍が期待される会議となりました。

○意見発表

岩越隆志氏（奄美市）

品目：パッションフルーツ、野菜苗

「就農して3年間で感じたこと」と題して意見発表を行いました。就農からこれまでを振り返り、今後の課題や目標について話をされました。また、これから就農を目指す方に向けて先輩農家としてアドバイスをされました。

○事例発表

園田裕一郎氏（喜界町）

品目：パッションフルーツ、メロン、かんきつ、農産加工

「ドレンベルトを用いたパッションフルーツ水管理の改善」と題してプロジェクト発表と、プロジェクト実証ほ場の視察研修を行いました。喜界島全体の課題となる排水対策として自身が行った取組について話をされました。



意見発表（岩越氏）



プロジェクト発表（園田氏）



視察研修（園田氏ほ場）

ストップ 赤土流出！～耕作地でできる対策に取り組もう～



緑肥作物の栽培



ソルゴー等の被覆



ハーベスタ、路面の清掃

土作りを兼ねて休耕期にソルゴーを栽培し、降雨による土の流出を防ぐ。

畑の裸地部にソルゴーやススキ等を敷き、降雨による表土流出を抑える。

ハーベスタのベルト等に付着した土を落とす。路面の土を圃場に戻す。

赤土は粒子が細かく、大雨が降ると河川や海に流出してしまいます。各自でできる対策は小さくとも、島全体としては大きな成果となります。奄美大島・喜界島の大切な農地と自然を守っていきましょう。